



選んで買う時代の 「保険の見直し」

一般財団法人地域社会ライフプラン協会 塚本伸明

最

近、雑誌等で「保険の見直し」という記事をよく目にします。万一の際、保険金が多いにこしたことはありませんが、その分保険料の負担も大きくなりますので、「必要な保障」を「必要な分だけ」買い、保険料を節約しようというわけです。

この場合、ただ保障金額を下げるというのは危険ですから、その目安として「必要保障額」という考え方があります。万一の際、残された家族が路頭に迷わないためには、どれくらい準備しておけば安心か？ということなのです。

お子さんがいらっしゃるご家庭なら、子どもの成長とともに、今後、必要な教育費が減っていきますので、「必要保障額」も年を追うごとに減っていきます。そして、リタイア後の「必要保障額」は死後の整理費用（葬式代など）ということとなります。

「必要保障額」を考えるにあたっては、遺族共済年金等の公的給付や職員互助会等の給付金の分は差し引いて計算します。

「必要保障額」を基準に生命保険の保障額を決めれば、保険料を節約することもできます。年を追うごとに減っていく「必要保障額」に合わせやすい保険の代表格が、月単位で保障金額を決める「収入保障保険」です。

例えば、月20万円の保障額で60歳まで「収入保障保険」に加入すると、万一の場合に、亡くなれたときから60歳になるまで、毎月20万円保険金が支払われます。

30歳で亡くなられた場合には、20万円×12ヶ月×30年で総額7200万円の保険金を受け取ることになります。50歳で亡くなられた場合には、20万円×12ヶ月×10年で総額2400万円の保険金を受け取るこ

とになります。まさに、生きていればもらえたであろう給料（収入）の一部を保障する保険なのです。

また、「更新型の保険」に加入していて、更新時に保険料が1.5倍になって、家計を圧迫したという経験をお持ちの方もいらっしゃるかもしれませんが、「収入保障保険」の保険料は「定額方式」または「逓減（減額）方式」で、保険期間の途中で保険料が上がることはないので安心です。

最近、街中でよく見かける「保険ショップ」で「保険の見直し」を行った人の多くが、この「収入保障保険」に切り替えているそうです。皆さんも「保険の見直し」をする前に、経済雑誌やインターネットで「収入保障保険」という保険商品について、調べてみることをお勧めします。

併せて、各保険会社の商品を比較してみることも、保険料の節約のうえで有効です。保険会社によっては、「健康状態が優良な方」「煙草を吸われない方」向けの割引制度がある会社もあります。

この他「保険の見直し」では、職場回覧で募集している団体保険・共済制度を検討してみるのも良いでしょう。保険料が大幅に割引されており、剰余金の払戻しもありますので「お得度」が高いです。ただし、募集時期は通常年1回なので注意が必要です。

保険は選んで「買う」時代になりました。ご自身にあった保険を充分検討して、「保険の見直し」をされることをお勧めします。

